

現場訪問

企業向け新安全運転教育プログラム「ドライビングマスタープログラム」がスタート

●交通教育センターレインボー浜名湖



「車両感覚運転プログラム」では正確な車両感覚と適切な安全確認行動、焦りに対する平常心のコントロールを確認する

を求める声もある。そこで、このマスタープログラムでは企業ドライバーの運転能力や課題を客観的に診断し、自分の運転特性を把握してもらうようにした。



交通教育センターレインボー浜名湖（静岡県浜松市）が、企業向けの新安全運転教育プログラム「ドライビングマスタープログラム（以下、マスタープログラム）」を開発した。

これまでに多くの企業が交通教育センターを利用し、路上診断や安全運転研修の受講を通じて社員への安全運転教育を行っている。そうした企業からは社員各々の運転能力の判定や課題を把握するための研修

受講内容は「運転知識プログラム」「エコ運転プログラム」「車両コントロールプログラム」「車両感覚運転プログラム」。この4つから、受講者の特性を「法規走行」「円滑性」「正確性」「エコドライブ」「危険予測・安全確認」の5項目に分類して運転能力を診断。安全運転能力のレベルを「トレーナー」「プロドライバー」「営業ドライバー」「一般ドライバー」「ビギナー」の5つの等級評価を行う。受講者はどの程度の安全運転能力を持っているのか理解できる。また、企業の安全運転管理者にとっては受講者のレベルを把握して社用車の運転認定や今後の運転教育に役立てられるようになっている。

7月3日に交通教育センターレインボー浜名湖で行われたマスタープログラムには6名の受講者が参加。午前中は、「運転知識プログラム」として、50問の交通法規、危険予測、安全知識に関する問題に回答。その後、コースに移動して「エコ運転プログラム」となり、規定のコースを決められたルールに従い、より少ない燃費で走行することに取り組んだ。

午後には「車両コントロールプログラム」からスタート。規定のコースを、パイロンに接触しないようにスムーズに走り抜けることを目標に練習走行を開始。走行が終わる度、インストラクターが受講者一人ひとりに「焦らず落ち着いて操作してみましょう」と声をかけた。「車両感覚運転プログラム」は狭路を前進・後進で走行した。ハンドルをきりすぎず最小限の操作をするといったアドバイスを受けながら、受講者はタイム測定が終わった後も、練習を繰り返していた。

「車両コントロールプログラム」では車両特性を踏まえた運転操作、冷静な判断と集中力の確認



「車両コントロールプログラム」では車両特性を踏まえた運転操作、冷静な判断と集中力の確認

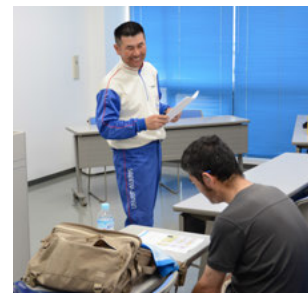
受講者からは「免許取得後に自分の運転を客観的に診断してもらう機会がなく、とても勉強になった」「今まで何気なく運転



練習の合間にインストラクターが受講者に改善に向けたアドバイスをを行う

していたことを痛感した」といった感想が聞かれた。

マスタープログラムの開発を手がけた交通教育センターレインボー浜名湖の仲田典生グループリーダーは「このプログラムの採点は減点方式です。公道での運転ミスは事故につながることもありますので、ミスすると減点が大きくなるようにしています。また、受講者には自分の運転を振り返っていただくことができるように、終了後に各項目の得点と等級評価がわかる結果表を差し上げています。このプログラムの普及を通じて、交通事故削減に貢献していきたいと考えています」と語った。



プログラム終了後、受講者に結果表を渡し、自分の運転特性を把握してもらう

TOPICS

01 ●イオンバイク（株） Hondaのノウハウを活用して 各地で自転車教室を推進



参加者は指導内容を実践し、教室を開催するためのノウハウを身につける

Hondaは、交通安全普及活動の拡大に向けた取組みのひとつとして、全国に300店以上の店舗を展開する自転車専門店のイオンバイク（株）（本社：千葉県千葉市）と連携した活動を推進している。この取組みは、Hondaが自転車の交通安全教育ノウハウをイオンバイクに提供し、同社がそのノウハウをお客様や地域の方々に提供するというものだ。Hondaの教育ノウハウと、イオンバイクの持つ自転車利用者との接点という両社の強みを持ち寄り、互いにない部分を補完することで、さらなる活動の充実をめざしている。今年度は「親子で学ぶ 自転車あんぜん教室（以下、教室）」を全国へ拡大していくため、地域ごとにイオンバイクの店舗を管理する国

内の全エリアマネージャーを対象に、指導者養成勉強会を実施した。勉強会では、本田技研工業（株）安全運転普及本部のインストラクターが、子どもに指導する時のポイントや、教室を始めるにあたっての事前準備から基本練習・走行練習の具体的な内容を説明。その後、参加者同士によるロールプレイングによって、指導ノウハウを身につけてもらう。



イオンバイク営業企画本部部長の櫻井伸彦さんは「昨年、教室を実施してから、社内でも自分たちが主体となって交通安全活動を推進しなければならないという意識が高まって



安全運転普及本部のインストラクターが参加者に指導する時のポイントなどを説明

います。今回の勉強会で具体的なノウハウを落とし込むことができました」と、参加したエリアマネージャーを通じて秋以降、全国各地での教室開催を加速させたいと語った。



イオンバイク（株）営業企画本部部長の櫻井伸彦さん

02 ●群馬県ホンダ会 群馬県内で幼児向け交通安全教室を 開催できる体制づくり



群馬県ホンダ会の会員各社のスタッフを対象にした研修会

Hondaは幼児向け交通安全教育プログラム「あやとりい ひよこ編」（以下、あやとりい）の指導ノウハウをHonda Cars（四輪販売会社）に提供し、ショールームに来店するお子様や各拠点の近隣にある幼稚園・保育園の園児を対象にした交通安全教室の開催を行っている。

7月22日、群馬県内のHonda Carsで構成する群馬県ホンダ会は会員各社で営業サポートを担当するスタッフ40名を前橋商工会議所に集め、「あやとりい」活用のための研修会を実施した。研修会では本田技研工業（株）安全運転普及本部のインストラクターが「あ



「あやとりい」の指導内容を解説し、教材を使って実演。その後、参加者が指導者役と受講する園児役になり、指導内容を実践した。

群馬県ホンダ会総務委員長を務めるHonda Cars 高崎北・取締役常務執行役員の後藤美智雄さんは「小さなお子さんが交通事故に巻き込まれないようにすることで、地域に貢献していきたいと考え、『あやとりい』を取り入れることにしました。各拠点が幼稚園・保育園で交通安全教室を開催できる体制づくりをめざしています。53拠点あるので、群馬県全域で展開していきたい」と話す。



群馬県ホンダ会総務委員長の後藤美智雄さん（Honda Cars 高崎北・取締役常務執行役員）

このように、Hondaは「あやとりい」を7月末時点で全国100社以上のHonda Carsに普及している。